

SHOW HEY シネマールーム

★★★

スキップ・トレース (絶地逃亡)

2016年・アメリカ、中国、香港合作映画
配給/KADOKAWA・107分

2017 (平成29) 年9月3日鑑賞

TOHOシネマズ西宮OS

Data

監督：レニー・ハーリン

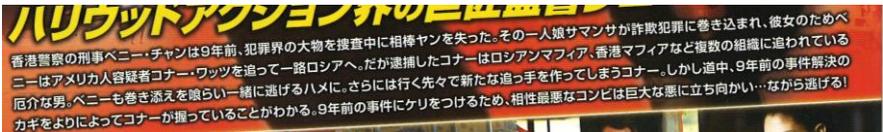
出演：ジャッキー・チェン/ジョニー・ノックスヴィル/ファン・ビンビン/エリック・ツァン/イヴ・トールス/ウィンストン・チャオ/シー・シー

■ショートコメント■

◆本作はチラシの宣伝文句によれば、「ジャッキー映画史上最高のオープニング記録を樹立した 世界逃亡バディ・アクション!!」。ジャッキー・チェンが演じる香港警察のベテラン刑事ベニーの「バディ・アクション」の相手方となるコナー役を演じたハリウッド俳優のジョニー・ノックスヴィルの名前は知らなかったが、ファン・ビン・ビンは今やハリウッドでも有名な中国人の美人女優。

ちなみに、「スキップ・トレース」とは聞き慣れない言葉だが、①借金や結婚から逃げた人物を追跡する。②保釈中に逃亡した被告を追跡する、という意味らしい。なるほど、なるほど……。もっとも、原題たる『絶地逃亡』の「絶地」とは、電子辞書「中日大辞典」によると、「①極めて険阻なところ、②行きづまり、窮地、窮地に陥る、にっちもさっちもいなくなる」だから、「スキップ・トレース」までの意味は含まれていない。この両者を比較すると、本作については、原題よりも邦題の方がぴったりだが、さて、その言葉をどう理解すれば……?

◆本作のストーリーは、チラシによると次の通りだ。



これをみると、本作は刑事と詐欺師の「バディ・アクション」だから、変な展開になっていくのは当然。本作ではそんな興味をしっかりとキープしながら、鑑賞したい。

◆ジャッキー・チェンの映画は当たり外れが少ないのが特徴。そして、前作の『レイルロード・タイガー』（16年）は例外として（?）、世界を股にかけたハチャメチャかつ奇想

天外な物語になるのが特徴。本作は、まさにそれだ。

そんな本作の香港、マカオとロシアと広がっていく舞台の中で、サマンサ役を演じたファン・ビン・ビンが刺身のツマ的な役しかやっていないのは少し残念だったが、ジョニー・ノックスヴィルの方は、ジャッキー・チェンの相棒として元気ハツラツ。その面白いキャラクターを存分に發揮しているので、それに注目！

◆去る8月26日に観た『ブランカとギター弾き』（15年）は、フィリピンのスラム街で生きる孤児と盲目のギター弾きとの、「お母さんをお金で買いたい」とする心温まるロードムービーだった。それに対して本作は、現職の香港警察刑事と詐欺師のアメリカ人とのロードムービー（逃亡劇）だが、そこでは何とんでも「バディ・アクション」が売り。

若き日のジャッキー・チェンは、『蛇鶴八拳（蛇鶴八歩）』（77年）や『龍拳（龍拳）』（78年）、『ドラクモンキー 酔拳（酔拳）』（78年）等のユニークな格闘技が面白かったが、近時の彼の格闘技は多種多様になっている。60歳を過ぎてなお全身にあざを作りながら「バディ・アクション」に奮闘する彼の姿に拍手！ああ、面白かった、理屈抜きで、本作はそれで十分！

2017（平成29）年9月6日記